

知の迷宮を思わせる、エーコの静謐の館。

思索と夢想にふさわしい場所、それがこのホテルだ。ヨーロッパきっての知性派は、アールデコに彩られた寡黙なたたずまいに暮らすことを選んだ。



近頃、半数近くの部屋を改修したが、宿泊客の多くは昔のままの古い部屋を指定してくるという。この黄色と緑のスイートルームも、昔ながらの静かな意匠に彩られている。



バスルームにも細かい改修の手が入っているが、蛇口まわりなどは20年代のスタイルが守られている。



宿泊客にはリピーターが多い。にぎやかなローマにあるとは思えない独特の落ち着きが人を惹きつけるのか。



バーにはゆとりとする明るさがある。アールデコで飾られたワインドゥーは、創業当時のままの特注品だ。



建築から大衆文化までを論じるウンベルト・エーコ。ボローニャ大学やパリ大学など、各地で教壇に立つ。

UMBERTO ECO / CAMERA PRESS/CHRON PRESS

ウンベルト・エーコは、記号論学者というより、今では小説『薔薇の名前』の作家として知られるようになった。中世の僧院を舞台にした、知の迷宮に誘う異色ミステリーの傑作だ。

欧米各地を大学の講義や講演などで飛び回るエーコも、ローマに在る間はここホテル・ロカルノのスイートルームを住まいと定めている。思索の時間を必要とする彼にとって、このホテルの寡黙なバースベクトイプと、アンティーク家具の醸し出す独特の質感は、心地よいらしい。

気がつかずに通り過ぎてしまいがちなホテルだが、実は映画監督や俳優、音楽家などの投宿客が多い。かつて『甘い生活』の時代には、マストロヤンニやフェリーニがよく利用した。最近ではニキータ・ミハルコフなどだ。そのわりに知られていないのは、ホテル側の実直な配慮があるのだから。

オープンした1925年当時のアールデコを基調とした内部には、時間の磨いた濃密な落ち着きがある。いかにも『薔薇の名前』の作者が住み着いて不思議のない空間だ。

FLAMINIO
p. Flaminio
Via Luisa di Savoia
ROMA
Via della Penna
Via di Ripetta
Via del Corso

● Via della Penna, 22
00186 Roma
☎ (+39)06・36・10・841
FAX (+39)06・32・15・249
☪ FLAMINIO
スイートに1年間暮らす場合、
1泊459ユーロ〜
シングル120ユーロ〜
ダブル160ユーロ〜 66室
www.hotellocarno.com